令和３年度第１回広島市社会教育委員会議　議事の概要

日　時：令和３年１１月１９日（金）午前９時３０分～１１時
場　所：広島市男女共同参画推進センター５階研修室３
公開・非公開の別：公開
傍聴人：２名
出席者：（１）委員　１１名
平尾委員、岩元委員、志賀委員、松本委員、湯浅委員、仲西委員、金谷委員、板倉委員、鈴木委員、山川委員、砂橋委員
（２）事務局　８名
橋場市民局次長、田渕生涯学習課長、横山文化振興課長、西本育成課長、平田生涯学習課長補佐、井上主幹、正留主査、妹尾主事

【議事（会議要旨）】

（１）議長・副議長の選任

議長に砂橋委員、副議長に山川委員を選任した。

（２）中央公園内の公共施設の集約化等に向けた検討について

資料１に基づき、令和３年１１月１８日の都市活性化対策特別委員会で報告した内容を説明し、資料２に基づき、主に中央図書館等の再整備に関しての具体的な機能等について具体例の案を示し、各委員から意見を聴取した。

（３）その他　令和３年度全国社会教育委員連合表彰の報告

令和３年度、本市の齋藤圭子元委員（令和３年１月３１日まで就任）が表彰された旨を報告した。

【議事２「中央公園内の公共施設の集約化等に向けた検討について」に係る委員からのご意見等】

（平尾委員）

この会議の中で意見を聴取するということだが、本日の会議で議論するのはどのレベルなのか。例えば、「中央図書館をエールエールＡ館に移転することに関してそれは違うのではないか」という、そもそもの是非についても議論するのか、あるいは移転は前提として「例えば具体的な機能について、こういった使い方をしてはどうか」というようなことなのか、どのあたりを前提に議論していけばよいのか、基準のようなものがあれば教えてほしい。

（田渕生涯学習課長）

まずは中央公園内の公共施設の集約化等の検討について、社会教育関係の施設の状況をご報告させていただいた。このたび中央図書館、こども図書館及び映像文化ライブラリーがエールエールＡ館に移転し再整備するという方向性が出たため、再整備するにあたっての色々なご意見を市民の方からもいただきたいが、専門的な委員の皆様からご意見をいただきたいと考えている。

（橋場市民局次長）
　新聞報道を今朝ご覧になった方もいらっしゃると思うが、エールエールＡ館への移転については賛否両論がある。私共としては色々な方々のご意見を聴きながら事務を進めたいと考えているため、本日の会議ではエールエールの賛否のご意見があればそれは出していただければと思う。このたび中央図書館、こども図書館及び映像文化ライブラリーを一つに集約することについて、例えば、映像文化ライブラリーに関しては、昭和５７年に開館したときから映像を巡る環境が随分変わっているため、移転後の具体的な機能等のご意見などをいただければと思っている。

（平尾委員）
　ハードな部分も含めて、例えば、ファミリープールは残してくださいということでもよいのか。

（橋場市民局次長）
　資料２では３つの施設（中央図書館、こども図書館及び映像文化ライブラリーの集約）に絞った内容を説明したが、もしファミリープール等についてのご意見があれば私共から所管課に伝える。基本的には３つの施設の集約についてご意見をいただきたい。

（平尾委員）
　了解した。

（山川委員）
　資料１も含めたところで質問したい。にぎわいを創出するという大きな目的があるのはよくわかった。資料１の参考で挙げている明石市や神戸市もそういった方向に向かっているが、今後の方向性やあり方として、利便性としての豊かさを図書館等に追及するのか、それとも心象風景などその体験としての豊かさを図書館に求めていくのかによって場が違ってくる気がする。現在の中央図書館、こども図書館というのは、おそらく心象風景として残る部分が子どもたちにはあるのだろうと思う。それがビルの中に集約をされていったときに、利便性としての豊かさは生まれるが、利用者、市民にとって心象風景として残るものになるのか、方向性、また文化施設の在り方も含めてどう考えているのか。
　もし前者の方のにぎわいや利便性としての豊かさという方向性であれば、検討の中で、心象風景のことも含めて検討がなされているのか。神戸市はいち早く図書館・博物館を教育委員会から市長部局に移し、それを街のにぎわい創出の一つの制度的な保障にしている。前者のにぎわい創出ということであれば、広島市は図書館等について市長部局への移管ということも含めて検討しているのか。

（田渕生涯学習課長）
　移転先を検討するにあたって、図書館の利用者数が減少傾向にあり、特に中央図書館は他の図書館に比べて減少率が大きいという現状があるため、市としては利用者が利用しやすい図書館にしたいという思いもあり、利便性から場所を絞っていったという面がある。
　移管については、図書館を所管している当課は教育委員会から事務委任を受けて図書館等を所管しているため、現在のところは、特に市長部局へ移管するということは考えていない。

（橋場市民局次長）
心象風景については、私共は考えてなかった部分もあるため、どちらかというと利便性を優先して検討した。心象風景という視点も必要だということを改めて教えていただいたため、エールエールへの移転後の内装やレイアウト等をできるだけ心象に残る図書館となるよう検討したい。

（山川委員）
こども図書館は、皆さんが戦後復興の中で何とか子どもたちに早く学びの場や集いの場をという思いで寄附を募って作られたという経緯と認識している。そういったこども図書館や日本初のこども文化科学館という在り方や戦後復興の中で子どもたちの健やかな成長をサポートしてきた施設の在り方そのものが、今回の移転により断絶されることがないようにしていただきたい。
心象風景という視点で何らかの形で歴史を継承することは重要と思う。個人的にはあの緑豊かな場に残してほしいという思いはあるが、そこはおそらく議論の余地はない段階と受け止めている。心象風景というところで何らか足跡を残してほしいという願いが私だけの意見なのか、市民もそういう思いがあるのかということに関して言うと、パブコメだけではなく、早めの段階で市民の声をしっかりと拾うというプロセスを確実にやっていただきたい。

（田渕生涯学習課長）
こども図書館を設置した経緯については、昭和２４年（1949 年）にアメリカのハワード・ベル博士を通じて約１，５００冊の絵本の寄贈を受け、児童図書館として当時小町にあった浅野図書館に併設する形で開設した。子どもたちが夢や希望を持つようにこども図書館を建てて欲しいという願いからロサンゼルス市の南カルフォルニア州広島県人会等から建設費の寄贈を受けて、昭和２８年（1953 年）に現在地に独立館として開館したという歴史がある。現在の施設については、昭和５５年（1980 年）に建替えを行いこども文化科学館と併設となった歴史がある。ハワード・ベル博士を通じて寄贈を受けた貴重な絵本等については、本市こども図書館の特別コレクションという形で大切に保管を続けていくとともに子どもたちのためにという善意の人々の願いを受け継ぎながら、移転する中央図書館等と併設することで、親子が本に親しめる環境を提供し、よりよい図書館を目指していきたいと考えている。

（板倉委員）
私はいつも子どもたちと関わっている。子どもたちが本を読むことは本当に少なくなってきており、本を読みましょうということで色々な行事をされていると思う。本を読む姿勢は、静かなところで静かに本を読むことだと思っている。利便性と聞くと、現在は図書館で本を借りたいと思えば、別の図書館から取り寄せてもらい本を借りることができる。娘もよくそれを利用し本を借りているが、そこに行く価値があるほどの図書館ができるのであれば、静かに本を読めるような環境をぜひ作っていただきたい。本を読むことは大人になれば特に必要だと感じるため、やはりそれなりの環境、本を読む姿勢が身につくような図書館を作っていただきたい。

（岩元委員）
中央図書館がエールエールに入るということは、大人にとっては利便性が高くてよいと思う。こども

図書館については、たくさんの多様な人が訪れるときに、子どもや乳幼児を連れたりベビーカーを押している保護者も行くというところで安全安心な場でないといけないと思う。それを担保できるのか。

本を読むことは子どもの心が育っていくことであるため、そこの育みとよりよい環境、安全安心な環境を作っていただきたい。

また、図書館の運営については、これから先のことになると思うが、最近は民間に委託するといったこともあると思うが、そうするとすごくおしゃれな図書館にはなるが、蔵書の質が落ちるのではないかという懸念があるという話もあるため、やはり図書館は、人気はないけれどもよい本、自分にとって必要な本に出会える場だと思うため、従来の図書館のよさを担保しつつやっていただきたい。

（田渕生涯学習課長）

安全安心の場ということについては、エールエールに移るにあたってどのようなフロア構成にしていくかいただいた意見を踏まえ検討していきたい。

管理運営について、今の中央図書館には平和や原爆関係の資料や貴重な資料等があり、そのような人気があるだけではなく多様な住民の学習ニーズに適切に対応した図書館サービスを提供するためには実務経験豊かな専門職員を多数確保する必要がある。そのため、現時点では、そういった職員を多く有している、現在の指定管理者の広島市文化財団にお願いするのが最適だと考えている。

（橋場市民局次長）

現在は、中央図書館、こども図書館及び映像文化ライブラリーの３つの施設を合わせると床面積が約１万㎡ある。移転後は集約のメリットを生かすため、１万㎡から面積が少し減ると思うが、仮に１万㎡を確保するとしたら、エールエールＡ館のワンフロアでは確保できないことから複数のフロアに分けて今の３つの施設を集約することになるため、安全安心の面も考えフロア構成を検討していきたい。

（鈴木委員）

日頃から読み聞かせ活動で子どもたちや保護者と関わっている。今回の話は非常にわかりやすくてよく内容が掴めた。中央図書館、こども図書館及び映像文化ライブラリーをひとつに、青少年センターとこども文化科学館をひとつにするという考えは、世代間の交流等を図るという意味では非常にいい案だと思う。よく考えられていて場所についても非常に検討されていると思う。５つほど提案したい。

一つ目は、開館日時である。現在は月曜日が休みであるため、デパートに行って少し寄ってみようかと思うときに閉まっているということがある。時間についても、最近は仕事が終わってから買い物に行く人もおり、現在の図書館は７時頃には閉まるため、利便性を考えて中央の核となる施設になるよう、開館日また開館時間を考えてほしい。

二つ目は、先程フロアごとに分けるという話で非常に安心したが、泣いたり騒いだりまたおしゃべりしたりしてもいい安心して子どもたちが読書、交流ができるような場にしてほしい。最近の保護者は非常に気を遣っている。ＪＲの中で少しでも泣いたら静かにするよう注意したり、大人も余裕がなく睨んだり舌打ちする人もいるため、そういったことがないようなフロア構成にしていただきたい。非常に保護者は気を遣って子育てをしている。

三つ目は、駐車場についてである。エールエールＡ館は駐車場が非常に少ない。お中元等のシーズン

になると、多くの車が並ぶ。そういった状況では、少し図書館に入ろうと思っても、やめようかと思うことになる。利便性はいいが、ベビーカーを引いたり足が少し悪かったり妊娠している場合には、公共交通も中々利用しにくいため、別途、例えば減免できるような駐車場と提携するなど、近隣の市の福祉センターにも減免はないので、減免で使えるように駐車場も配慮していただけたら嬉しい。

四つ目は、最近はオンラインで色々な会議や研修を受けることが多くなった。コロナ禍が終わっても、おそらくひとつのいい面としてそのまま続けていくのではないかと思う。そのため Wi-Fi の設備をぜひ整えていただきたい。オンラインの研修や読み聞かせボランティアの養成などをしていくことでボランティアの数が増えることや、また職員だけでは難しいことについてボランティアによる活動の支援・サポートなどにもつながっていくと思う。機能を区の図書館とは分けて、区は行きやすい通いやすい交流しやすい場、中央図書館等は中核となる研修や育成をする場になるよう分けるとわかりやすい。

最後五つ目は、中央図書館には広島資料室があり、色々な原爆などの資料を集められていると思うが、広島市外からも、利便性がいいため例えば大阪や島根などから図書を借りてみたいと思った場合など、幅広く色々な方が、広島市を核とした広域のネットワークで本を借りたり利用できるような場になると、モデルとしての図書館になるのではないかと思う。

（田渕生涯学習課長）

開館時間については、これから運営をどのようにするかという検討の中で色々な方のご意見をいただきながら考えていきたい。

フロア構成については、現在３フロア程度になると考えているが、こどものフロアはひとつとなるようイメージしている。

エールエールＡ館の駐車場は、お中元などのシーズンやイベント等が開催される際に多くの車が並んでいるため、周りの民間の駐車場との提携で減免できるかどうか、どのようにするか検討していきたい。

Wi-Fi やボランティアの養成、区と中央との役割分担についても検討していく。

広域都市圏については、現在も広島市の図書館は、広域都市圏では本の貸し借りができるようになっている。広域都市圏を越えた範囲でどこまで対応できるかは検討していきたいと考えている。

（橋場市民局次長）

広域都市圏については、広島市の近隣の市町２３市町で協議会を作っており、その協議会の間では私共の図書を使っていただけるという制度は設けている。今年の４月から三次市も入り２４市町の方に広島市民と同様に図書カードを作って借りていただけることとなった。

（湯浅委員）

基本方針２の広島らしさを学び情報を発信する場づくりの中で、平和関係資料や映像等による情報発信というところについてお願いがある。

広島、長崎は実際に原爆の被害に遭った都市であるため、学校教育で平和学習または平和教育をしているが、一歩外の県に出ると、「ハチロク？何それは。ハチキュウ？何？」そんな状態である。しかし、他の県・市にあっても平和学習や平和教育をやりたいという先生がいる。ではどのようにやっていけばよいのか。広島市または長崎市には今まで蓄えた資料等がある。そういったことから、他県の方から「こ

ういった資料が欲しい」と言われたときにはすぐ貸せるような状態であればなと思う。

（松本委員）
今日の会議にあたり何を検討するのか根本的に何かと思っていたが、ここまで決まっている中でどこまで今日の委員の意見が反映されるかということは期待するところである。
ＷＥＢ環境の設備について、生涯学習の視点からも、働いている世代というのは業務が終わってから図書館を利用するため、図書館の利用が難しい状況であることも踏まえ環境が整備されているとよい。
「広島らしさ」というのは、これは何を広島らしさというのかと率直な疑問である。何か定義のようなものがあるのか。行政の色々な会議で広島らしさという言葉が必ず出てくる。戦後復興の色々なことが盛り込まれていること平和のことなのか、あるいはスポーツであればカープを応援する市民の魂なのか。産業・スポーツ・歴史のことなのか。特に私たちは健康というところで、どのように定義してどのように見せていくかということを、もう少し私たちにもわかるように、また、私たちも検討ができたらいいのではないかと考える。

（田渕生涯学習課長）
ＷＥＢ環境の整備については、現在もインターネット端末の設置、無線 LAN が利用できる席あるいは全国紙のオンラインデータベース等の商用データベースを閲覧できる席を設けている。また、浅野文庫や広島にゆかりの深い文学者の著作等のデジタルアーカイブ化に取り組んでおり、地域文献のさらなるデジタルアーカイブ化やイベントのオンライン開催、電子書籍の導入などについて、今後検討していくことを考えている。
広島らしさについては、何が広島らしさというかは一言では非常に難しいが、広島の特徴を広く発信できるような場にできればと考えている。

（橋場市民局次長）
現在、広島市民が１１９万人おられる。他都市から引っ越してこられた方もおり、エールエールは駅前にあり旅行者も結構来られるため、広島らしさについての私共の思いとしては、広島全般のことを知ってもらうような場と考えている。具体的に広島らしさの定義は中々難しいが、歴史や文化だけではなく産業、スポーツなど、色々な広島のことを幅広く知ってもらうという意味で「広島らしさを学ぶ」としている。

（金谷委員）
利用者が中央図書館は減少していることについて、広島市内の他の図書館との比較、あるいは類似規模の他の自治体の図書館と比べた広島市の図書館の利用状況を教えてほしい。

（田渕生涯学習課長）
申し上げたのは入館者数の比較であり、平成２１年度から平成３０年度の１０年間で、中央図書館が２０．３％減少している。これに対して、本市の中央図書館以外も含めて各区に図書館があるが、全部の市立図書館の平均の減少率は約１０．９％となっているため、区の図書館に比べると、中央図書館の

入館者数は減っている。

（金谷委員）
　他都市と比べた広島市の図書館の利用状況は調べていないということか。

（田渕生涯学習課長）
　データとしてはあると思うが、本日は資料を持っていないためすぐにお答えすることが難しい。

（金谷委員）
　新しい図書館を作るためには、なぜ人は図書館に行かなくなったのかもう少し丁寧に分析しないと。図書館で一番大切なのは中身・コレクションだと思う。紙媒体の書籍利用は減っており、電子図書やオーディオブックなど電子媒体も踏まえながら今後の整備計画を作ることが大切である。
　また、施設は作った日から劣化していくため、維持管理できる体制を作ること。一生懸命働く専門人材を活かす仕組みとお金を合わせて、図書館のソフト部分を十分検討をすることが必要である。

（平尾委員）
　デジタル化が進んでいく中で、それは一つの傾向であると思うので、図書においてもそういったことは言えると思うが、一方で、各区図書館とは違い「中央」図書館である意味ということを考えなくてはいけないと思っており、かつ、そこにリアルな「場」が存在しているということをフルで活かす必要がある。具体的には、いわゆる社会施設の一つとして図書館で人材育成が行われていくためにも、集いながら学ぶという仕組みや実際建物ができてそれを運営していくときにおいて、市民をどう巻き込んでいくか一緒になって運営していくかなど、特に「施設をどう協働で運営するか」と後で言われるが、これは初期の段階からしっかりデザインしておくということがかなり大事な視点である。
　２つ目に、移転を想定されている建物には上層階に本屋があるので、そことどう連携していくか。何かユニークな連携ができればそれは一つ全国の事例にもなり、いいつながりがそこで生まれたらと思う。
　質問であるが、基本方針の２の中に平和関連資料等による情報発信とあるが、平和記念資料館とどう区分けするのか。あらかじめしっかりと役割分担ができていて、市民もそれを理解しているということが必要である。二重行政ではないが同じものが二つ存在するというようなことにならないよう、どのように役割分担をしていくかをあらかじめ検討する必要があると思う。
　また、基本方針の３の官民連携等によるというところだが、具体的に官民連携とはどのようなことがあるのか。エリマネと連携した PR イベントの開催とあるが、エリマネ以外に例えば公民館との連携だとか何か考えているのか。

（田渕生涯学習課長）
　人材育成については、こちらとしても大事なことだと考えているため、運営の中でどのようなことができるのか検討していきたい。
　本屋とどのように関わっていけるかについては、基本的には図書館と本屋とは役割が異なっているため、どういったところが連携できるかということになるが、フロア構成については、エールエールを管

理している広島駅南口開発株式会社とこれから話を進めることとなるので現在わからない状況であるが、もし本屋が残るということであれば、他都市では本屋と図書館とが同じ建物フロアで併設されたことにより利用者の利便性が上がったという事例もあるため、そういったことも参考にしながら考えていきたい。

平和記念資料館との役割分担について、平和記念資料館は主に原爆の関係の資料を持っている。一方で、例えば、映像文化ライブラリーは色々な昔の映画フィルム等の資料を保存している。平和に限らず平和に関連するような映画等も保存されているため、そういったものは確保していく。

（橋場市民局次長）

他都市の先生方が平和の資料を利用したい場合には、平和記念資料館など平和関係の施設等が持っている既存の資料等を提供していくことを検討していきたい。場合によっては図書館等と重複することもあろうかと思う。

（平尾委員）

管理する団体が、平和文化センターと文化財団と違う団体であるため、そこの連携が図書館を作っていく段階で必要ではないかと思う。

エリマネの質問についてはどうか。官民連携について何かエリマネ以外の連携を考えているか。

（橋場市民局次長）

中央図書館にはビジネス支援情報コーナーというビジネス支援に特化したコーナーがある。そこでは各種データベースを無料で提供して、市民の方が起業のための参考にされたり、専門家に来ていただいてアドバイスしていただいたりしているため、そういったところも含め、民間の方々とどう連携できるかを考えていきたい。また、広島駅近くには留学生会館があり、そこでは国際交流イベントをやっており、もっと手前のビッグフロントには福祉に特化した社会福祉協議会があるため、それは民ではなく官だが、それらの施設の官民の連携状況等も見つつどういったことができるか運営も含め考えていきたい。

（志賀委員）

図書館に対しての直球の話にならないかと思うが、ここ１０年１５年くらいの間で全国的に社会教育施設が教育部局から市長部局へ移管されるという流れがものすごく加速していると認識している。例えば廿日市市などは公民館が市民活動センターに移管しているが、その流れがいいのか悪いのかということは議論を置いときたいが、なぜそうなっているかというのを私なりに解釈すると、社会教育で日常的に学ぶことと社会の中にある課題、地域づくりやまちづくりと言い換えていいが、それらをつなげていきたいという何らかの思いがそこにあるのではないかと認識している。

つまり社会教育が始まった頃は、学ぶ場をとにかく整備していくとか市民の学ぶニーズに応えていくという環境整備の方が多かったが、今のように社会が複雑化してくると、市民がどう参画して社会の課題を解決していくのか、そこに社会教育がどう寄与していくのかということがテーマとして挙がっている気がする。市民の要求課題に応えていくという面を保ちつつ現代的な社会課題にどう取り組んでいくのかということが明らかに社会教育のテーマになっているような気がする。

そう考えると、例えば図書館に本という情報があるだけでなく、新たにどのような機能を付加させると学びと社会課題の解決が連動していくかを考慮したような機能を中央図書館に入れ込むととても活用しやすいと思う。

今、社会課題とは何かを SDGs のことで言うと、2020 年の SDGs インデックスという SDGs の達成度を国別に順位付けたものがあるが、日本は第１７位である。４段階評価の中で、日本の評価が低い項目が５項目あり、気候変動、陸の環境、海の環境、ジェンダー、パートナーシップである。この５項目については世界的に評価が低いのに、教育というカテゴリーは最高ランクの評価を受けている。教育は最高ランクの評価を受けているにもかかわらず、ちゃんと社会の持続可能性に寄与するような実用ができていないということは、環境の問題への学びやジェンダー、パートナーシップという学びが教育の中にちゃんと取り込めていないと言えると思う。だから図書館の中に、そういった SDGs の達成できていない社会課題を明確にテーマとして、図書館という情報がある部分と人材育成など課題について考えていくような学びのプログラムが機能として一体化されていたら、とても素敵な図書館になると思う。

（仲西委員）

今回広島駅前に移転して利便性がよくなるということはよくわかる話ではあったが、一方では、現在の場所はアストラムラインがあり、バスセンターもあり、そのあたりの利便性もあり、これだけの方が利用されているのだと思うが、移転することによってそれらの方はどうするのか。また、市内の図書館の一つには東区にも図書館が駅の近くにあるが、先程の利用率という意味でいけば食い合うような話になるのではないかと思うが、新しい場所のターゲットはどのように考えているのか。

また、新しい場所は商業施設ということだが、エールエールＡ館は建って２０年以上は経つのではないかと思う。あの建物がいつまでどうなのかということは中々見えないところだろうとは思うが、１０年後２０年後また場所を移動するということか。その将来性というのをどのように考えているのか。

（田渕生涯学習課長）

東区図書館は中央図書館の分館という位置づけで設置されている。区の図書館は市民の身近な図書館で、乳幼児から高齢者まであらゆる方の日常生活の中で必要とされる資料を提供していく図書館と考えている。中央図書館は、高度な学習あるいは調査研究のための専門図書館としての機能、また、広島文学資料など市として特徴を有する資料の収集も担っているという面が異なっている。

エールエールＡ館の耐用年数については、構造的には今から４０年以上は大丈夫と聞いている。現在の中央図書館が建って４６年経っているが、同様のスパンでやっていけると考えている。

（砂橋委員）

本日の基本方針についての意見を聞いて、特に金谷委員のコメントについては、基本方針に入れるべき中身だと個人的には思った。寄せられた視点については、今後必要な横軸であり大事なことだと思うため検討できるようであれば基本方針に入れていただきたい。意見の中には具体的な方法についての意見もあったため、もし次機会があれば、基本方針に追加する案の段階で、委員の皆様の意見を聴取できる場を設けていただけると、本日の意見が反映されているかどうか見える化ができる。

また、利用率が下がってきている話の関連で個人的な話だが、私は中央図書館の自習室は集中できる

ため大好きである。しかしながらいつも固定客がいて使えない。何が言いたいかというとそういった使いたいのに使えない人もいるということを考えているのか、それは使い方ということと子どもたちなど使いたい人が使えるかというところで、要するにソフトハードあるかわからないが利便性の評価というか、利用者の立場の目線があるかどうか、そこがないのではと感じる。大好きだが中々入れない、遅くなると使えない、でもいい場所である。したがって、雰囲気も合わせて場づくりをしていく中で、いろいろな意見を反映して構想の中に入れていただけたらと思う。

（橋場市民局次長）

本日いただいた意見については検討させていただく。最低でも４０年は使う図書館になり、移転に係る事業費も多額であるため、私共としては少しでもいいものを、市民の方々が利用しやすい、また、県外市外から来られる方々にも利用していただきやすい図書館を目指している。

市民意見については、今年度中に、時期は未定であるが、市民意見の公募も行いながら広く市民の方々の意見をいただき、またある程度今の基本方針が備わった段階で、どのような形になるか、ご報告して意見をいただくということになるかわからないが、何らかの形で皆様の意見をいただくよう考えている。